

令和7年7月10日

大阪府立柴島高等学校 第1回 学校運営協議会 議事録

1 会議日時 令和7年7月10日（木） 15:00～16:30

2 開催場所 大阪府立柴島高等学校 校長室

3 委員

	名前	資格	所属	出欠
会長	森田 英嗣	学識経験者	大阪教育大学 教授	○
副会長	岡崎 鉄彦	地域の関係者	大阪市立淡路中学校 校長	○
委員	表西 貴文	地域の関係者	大阪市新大阪人権協会 評議員	○
委員	三木 幸美	学校運営に資する活動を行う者	とよなか国際交流協会 事業主任	○
委員	坂本 浩子	その他の関係者	元本校後援会会計	×
委員	原條 由佳里	保護者	本校PTA 会長	○

4 事務局（学校側）

高田 裕介（教頭） 三輪 真嗣（首席） 武居 遥子（首席） 中川 智子（人権教育主担）
藤田 秀樹（事務長） 森田 正良（校長）

5 次第

- 校長あいさつ
- 会長あいさつ
- 運営協議会委員及び事務局員の紹介
- 事務局より報告
 - ・学校経営計画について
 - ・人権教育推進にかかわる年間方針について
 - ・各校務分掌及び学年の年間方針について
 - ・学校特色枠について
- 質疑応答
- 今後の予定

6 会議の概要

- 学校経営計画について（校長）
 - ・昨年度の第3回学校運営協議会でお示ししたものから大きくは変わっていないが、あらためてご確認をお願いする。引き続き、総合学科の学力育成、人権教育、インクルーシブ教育を柱にしながら、取組をすすめていきたい。

○人権教育推進にかかわる年間方針について（事務局）

- ・学校経営計画と同様、大きくは変わっていない。校内組織、とりわけ支援委員会については、他校のモデルになると考え、毎年、示している。
- ・教職員研修は、全3回を計画している。1回めは、7月22日に、神戸大学の李明哲さんを講師にお招きし、在日コリアンの立場から多様性についてお話しいただく。2回目は、10月に、菟中学校長の松田正也さんを講師として、学校特色枠選抜も踏まえ、中学校が本校に何を期待しているのか、考えていく機会としたい。3回目は、2月に、スクールロイヤーを講師として、いじめの防止や対策について学ぶ予定。
- ・その他の取組として、すでに生徒情報共有会や新転任研修については実施済み。7月29日には、東淀川人権教育研究会の研修に参加する。

【質疑応答】

会長）新転任の教職員は何人か？

事務局）今年は8人くらい。

会長）例年、そうなのか？

校長）ここ数年は概ねそれくらいで推移している。

○各校務分掌及び学年の年間方針について（事務局）

＜総務・教務・生活指導・進路指導・保健・集団育成・自立支援・各学年の順にポイントを説明＞

- ・今年度も広報活動に注力している。例えば、学校ホームページではコアカリキュラムのページを新設した。ブログ等でも各方面に情報発信を行っている。また、7月12日にオープンスクールを実施する予定。これに携わる広報委員となった生徒は100名を超えており、中には「憧れでした」という声もある。生徒の主体的な姿を見てもらいたい。
- ・PTAについては、これまでの多大なるご支援に感謝している。また、保護者に対し、月1回、メールマガジンで「柴高だより」を発信している。
- ・引き続き、業務の整理やスリム化、マニュアル化を進め、教員の負担軽減に努めたい。
- ・今年度も重点目標として、自分からあいさつできる学校づくり、いじめを見逃しゼロを掲げている。ルールやマナーについては、生徒が主体的に考える機会をつくりたい。
- ・進路指導については、一人ひとりの希望に応じて支援する体制を整えている。
- ・保健教育として、厚生労働省麻薬取締官を招き、生徒向けの薬物乱用防止の講演会を行う予定。学校衛生については、ゴミの分別の再確認を進めている。安全管理については、避難訓練や救急法講習会に取組んできた。
- ・「学校開き」や「託すHR」など、本校ならではの取組を通じて、傾聴できる態度と話す力を育成している。学校行事においても、多様な人がいることを前提として組織づくりや運営を生徒に考えさせている。また、生徒会活動については、政治的教養の育成も意識しながら、民主的な手続に基づく企画や運営をめざしている。
- ・アミティエ生のみならず周囲の生徒の成長も重視しており、できるだけ多くの関わりをつくるよう取組んでいる。また、「個別の教育支援計画」「個別の指導経計画」に基づき、きめ細かな支援を行っている。卒業後の生活も見通しながら、進路保障の取組を充実させていきたい。
- ・1年生のスローガンは「MAHALO」。自他への敬意を大切にしながら、生徒どうしが刺激し合い、前に進む気持ちを育てたい。また、保護者とも緊密に連携していきたい。

- ・2年生では、生徒の学力保障を重点に取り組んでいる。また、身だしなみ、遅刻、整理整頓など、生活基盤を整える自己管理の重要性を意識させる機会をつくっている。
- ・3年生では、生徒の背景を探究したうえで対話を行い、保護者との連携や教員間での情報共有も図りながら、取組を進めている。誰もがクラスの一員として強みを活かして活躍できるようにしていきたい。

【質疑応答】

委員) 昨年まで勤務していた小学校では1人1台端末の利活用を進めてきたが、中学校に戻ってみると、そこまでは進んでおらず、使える教科だけでやっている。高校ではどんな状況か？

事務局) 授業によって必要な方法をとっている。例えば、「小論文」は徹底して紙ベースであるが、紙に書くのも重要なスキルだと考えている。一方で、オンラインしかない授業もある。授業ごとの差はあるが、資料の提示や課題の提出などに活用していることは多い。

事務局) 小学校に行くと、国語の授業で児童がみな Canva を使いこなしていた。こういう子どもが数年後に入学してくると思うと、高校でも頑張らなければならない。

事務局) 本校でも、「卒業研究」の中間発表では、半分以上の生徒が Canva を使っている。

委員) 中学校では、やはり教科による。例えば、英語は使っているが、体育は使えていない。生活指導上のこともあり、端末の持ち帰りができていないことも課題となっている。

事務局) 文科省は1人1台端末の活用を言うが、世界では紙の方がよいという流れも出てきている。今後どうなっていくのか、難しいところだ。

委員) それぞれの学年が目標を立てているのは素晴らしい。保護者の立場からすれば、小中学校は同じ地域だが、高校は遠くなる。PTA活動をやっていれば学校との距離は近くなるが、そうではない保護者はあまり関わることがない。各学年の目標に示されているような保護者と教職員の連携を大切にしてほしい。そのために、教職員から近づいてきてほしい。そうなれば、保護者も安心できる。学校といつでも繋がれるという安心感があれば、違ってくる。

事務局) たしかに、保護者に学校の一番のファンでいてもらうことが子どもにもよい影響を与えることになる。

委員) 入学前、オープンスクールに毎回来ていた。何回も来ると様々な面が見られる。子どもには人間として成長してほしいという気持ちがあったので、柴島高校がよいと思った。ただ、そんなときでも、保護者どうして話せる場があると安心できる。上の子どもが通っていた高校では、オープンスクールでPTAが保護者対応をしていた。そんなことができればいいと思う。また、小学校は連絡帳があったが、高校になるとわざわざ電話をかけなければならない。いつでもウェルカムという空気をもっと伝えてもらえれば。電話をかけるハードルが下がるのではないか。

校長) もちろん、いつでもウェルカムなのだが、そこが届いてないということについて、あらためてご指摘いただいた。学校の課題として受けとめたい。

委員) 大丈夫だと言ってもらえたら話しやすいが、高校は敷居が高い。電話をかけたときに自動転送のアナウンスを聞くとドキッとする。すごくよい取組をされているのに、保護者にうまく伝わっていないのがもったいない。

会長) 個人的な話で電話するのはそんなことでかけてきたのかと思われるかもしれないと考えたりして躊躇してしまうが、その辺りを支援する人がいればよいのではないか。以前ドイツに行ったとき、「移民を支援できるのは移民。それが一番効果的だ」という話を聞いたことがある。

事務局) たしかに、ピアカウンセリングは有効だと思う。

委員) 本当にそのとおり。外国人への支援を行っているが、同じ背景を持つ担当者なら相談が倍増する。ハードルが崩れてスッと入っていける。ところで、今の自分のまわりで感じていることだが、傾聴する力がしんどくなっているのではないか。話すことはできても、聞くことが難しい。分断を煽るような情報のインプットが多くなっている中で、それを押し返す力を伸ばすような取組をさらにワンプッシュしていただきたい。いろんな場面で情報への正しい関わり方を伝える必要がある。「人権」と聞くとシャットダウンするような傾向もあるので、学校の各領域を横断して人権教育に取り組めれば、もっとよくなると思う。

事務局) 学校全体がネットワーク的に取り組むことは弱くなっているかもしれない。

事務局) 昔に比べ、マンパワー的になかなか難しくなっている。

委員) 教員スタッフの中にPTAの担当部署はあるのか？

校長) PTAは総務部が管轄し、3名の教員が担当となっている。

委員) 他の学校でPTA役員を経験したが、保護者がとても熱烈で驚いた。また、学校の事務職員がPTA副会長になっており、そういう繋がりがあると、保護者としてありがたかった。話は変わるが、昨年の創立50周年区記念事業はとてもよかった。そこで感じたのだが、「学校開き」等の取組をどう継承していくのか。NHKの番組など、映像で見るとすごく入りやすいので、ライブラリ化して、オープンスクールなどで流せたらよいのではないか。

事務局) 個人情報があるのでライブラリ化は難しいが、NHKの番組は1年生の授業で見せている。しっかりと次に繋いでいきたい。またご助言いただければ、ありがたい。

○学校特色枠について(校長・事務局)

- ・府教育庁が示す「府立高校改革グランドデザイン」の中で、学校改革、広報改革と並ぶ柱として、入試改革が打出されている。内容としては、令和10(2028)年度選抜から、選抜日程の一本化や複数志願制の導入とともに、学校特色枠を設置するというもの。8月8日までに各校が案を作成して提出しなければならず、その前に学校運営協議会でも意見聴取を行うこととされている。本日、原案をお示しするので、ご意見をいただきたい。
- ・作成にあたっては、本校が創立された背景や大切にしてきた人権教育の観点を基に、校内の作業チームで検討を進めてきた。該当するアドミッションポリシーについては、本校の掲げる4つ全てとし、特に求める具体的な生徒像についても、そのまま踏襲している。募集割合については、かつてのボーダーゾーンに準拠し、20%としている。重視する観点としては、学校の取組への理解、今後の学びへの意欲とした。選抜資料は、学力検査、調査書、作文とした。作文はアドミッションポリシーの理解や自らの体験などについて書いてもらうイメージで、公平性の担保が難しい面接と比べ、中学校側の負担も少ないのではないかと考えた。選抜方法については、志願者全員の総合点の高い者から順に募集人員の110%以内に到達しており作文の評価に優れた者を合格とする。総合点の高い者から順に募集人員の110%以内というのは、現行の選抜方法に準じたものであるが、これを加えることにより、中学校までの努力を評価するというメッセージとしたい。

【質疑応答】

会長) 作文の課題は公表されるのか？

事務局) 公表する。アドミッションポリシーを理解しているかという内容で検討したい。

会長) 一般枠の次の日に来て、作文を書くということか？

事務局) 中学校である程度練習したうえで、アドミッションポリシーの内容を落とし込むことができると考えている。

委員) この件については、強い関心がある。柴島高校建設に携わった先輩達の思い、厳しい教育課題との闘い、準高制度や地域の子どもが一緒に行くという理念など、自分も卒業生としていろいろ考えてきた。スケジュール的な制約があるのはわかるが、もっと深めていきたい。様々な生徒が偏差値にとらわれずに柴島高校に進学するための方法や仕組みを考えられないか。いろんな人の力も借りながら、もう少し先を見据えて議論できないかと思っている。

校長) 仰るとおりだと思っている。とりあえず進めないといけないので、今回はこれでいくが、継続的に議論していきたい。これを機に、次の柴島高校をどんな学校にしていけるのか、ご意見も伺いながら、深めていきたい。

委員) 15 年ぶりに戻ってみると、現任校から柴島高校をあまり受験していないと聞いて、ショックだった。受験者数を増やしていきたいと思っている。

委員) 柴島高校らしさというか、これが柴島高校の特色だと言えるものが伝わってほしい。

会長) 原点に戻って考え続けていくことに期待したい。8 月以降のスケジュールはどうなるのか？

校長) 秋頃に各校の特色枠の一覧が出るはず。

委員) 教職員、保護者、地域のいろんな頑張りがあって、今の柴島高校があるのだろう。大学進学をめざす生徒も増えていくので、その観点をもって、先を見据えてほしい。素晴らしい学校なので、さらにそこが乗れば、より素晴らしい学校になる。

事務局) 今のご意見を聞いて、アドミッションポリシーを変更することも検討すべきではないかと感じた。

委員) それも含めて検討してもらえたらと思う。

校長) 令和 10 (2028) 年度選抜は日程的に間に合わないかもしれないが、その次ということも視野に入れながら、検討していきたい。

7 今後の予定

○第 2 回学校運営協議会について

11 月に開催する方向で調整